

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌



KEIWA COLLEGE REPORT

第40号

October 2004

敬和カレッジ・レポート

発行／敬和学園大学広報委員会



7.13水害 支援ボランティア

CLOSE UP

「南国系天然児」 1996年度卒業生 ミュージシャン 皆川 匠

ボランティアと社会福祉

海外からのお客さま JCLPのご報告

就職活動支援／教職課程 妙高宿泊研修と公民課程の設置

リフレッシュ・セミナーのご報告／オレンジ会総会のご報告

敬和祭のご案内／保護者懇談会、研究所シンポジウムのご案内

2004



8月26日から29日に城下町新発田ふるさとまつりが開催されました。

敬和学園大学は、開学以来、このお祭りの民謡流しに学生と教職員がいっしょになって参加しております。みんなで集まっての練習を数回行い、当日は揃いの浴衣を着付けして学生30名、教職員20名で踊りました。

新発田市では、今年6月に新発田城三階櫓・辰巳櫓が復元され、さらには来年5月の紫雲寺町と加治川村との合併も控え、新しい新発田市へと生まれ変わりつつあります。ますます発展する城下町・新発田と共に、学生も本学も成長していきたいと考えています。

もくじ

CLOSE UP 「南国系天然児」 皆川匠	1	英語科教員対象リフレッシュ・セミナーのご報告	9
敬和ボランティア・ディーのご報告	4	オレンジ会総会のご報告	10
社会福祉士国家試験対策講座	5	アーチェリー場の設置について	10
訪問介護員2級講座を開催しました	5	第14回敬和祭のご案内	11
JCLP (日本語・日本文化プログラム) のご報告	6	オープンキャンパスのご案内	11
インターンシップと資格取得支援	7	1・2年生保護者懇談会と研究所シンポジウムのご案内	12
教職課程 妙高研修と公民課程の設置	8	学事予告／寄付者ご芳名	12
7.13水害のお見舞い	8	キャンパス日誌	13

<表紙写真> 「7.13水害支援ボランティア」

学生と教職員と一緒に現地のボランティアに参加しました (p.8,9)

「南国系天然児」

一九九六年度卒業生

皆川 匠



撮影 田村 仁

● できたての大学で

昨年に東芝EMIからデビューした「Boogaloob（ブガルーブ）」でアコースティックギターを担当している、敬和学園大学一期生の皆川匠です。

僕が敬和学園大学に入学したのは一九九二年の春のこと、今改めて数えてみて驚きましたが、もう十二年もたつのですね。

当時入学式が行われたのも今と同じ新発田市民文化会館です。その頃の新発田市は今に比べてまだ大規模なお店も少なく、城下町の風情とのどかさが溢っていました。

当時、敬和学園大学は開校したばかり。故に僕らの学年の上にもう一年だけという珍しい環境でした。できたての大学で歴

史も設備もないですから、何から何まで自分たちで創って行かなければなりません。そのせいもあってか学校全体がエネルギーがぎっしりだった感じがします。

いくつか話をすると、当時は体育館も別館のアネックスもなく、天気のよい日の昼休みは外にテーブル、イスを並べてランチ、などと代官山のカフェも真っ青な小粋な午後のひとときを過ごしていました。体育の授業があるときはスクールバスや各自の車で近所の中学校の体育館に移動していました。その後、体育の授業を終え、大学に戻つて次の授業に出席、というドタバタぶり。

しかし、環境への慣れというものは面白いものです。はじめのころは面倒だった体育馆への移動が、徐々に「マイカーでの子との甘酸っぱいプチデート」へとかわつていった人たちを何人も知っています。若いエネルギーってすごいですね。

当時入学式が行われたのも今と同じ新発田市民文化会館です。その頃の新発田市は今に比べてまだ大規模なお店も少なく、城下町の風情とのどかさが溢っていました。

当時、敬和学園大学は開校したばかり。故に僕らの学年の上にもう一年だけとい

う珍しい環境でした。できたての大学で歴

方々の苦労と努力は相当のものだったのだなあ、と頭が下がる思いです。
大学生活は非常に有意義なものでした。あまり勉強に勤しんだとは言い難いのですが、そのかわり「軽音楽部」を先輩や友人たちと一緒につくり、日々音楽活動に熱を上げていました。大学に行つてはギターを弾き、バンド活動に夢中になり・・・と、音楽に明け暮れていました。今のバンドメンバーの渋谷に出会ったのもこのころ。この時期の音楽的活動が今の活動のバックボーンであり、蓄積であることは間違いない、今的人生に影響を及ぼしている気がします。

そしてここからは学園祭である「敬和祭」でのことを少しお話ししましそう。僕にとって敬和祭は、とても楽しい思い出です。

● “炭火焼” ホットドッグ

もともとカーニバル好きのラテン系な性格で、お祭りと聞くと血が騒いでしまうのです。お客様として敬和祭に参加するだけではなく、バンド演奏をし、自分たちの力で企画・運営し、店を出し、色々ありながらも最後にはよい打ち上げができた、という感動は今でも忘れられません。そのたくさん感動を得た「敬和祭」の中でも特に強烈に記憶に残るエピソードを、二つほど紹介します。

まず一つ目は四年生の秋のこと。
それまでより人が増え、僕らにも後輩ができ、敬和祭自体も活気に満ちてきていました。もう卒業間近だった僕らのグループ

CLOSE UP

は、最後の年と言うことで、盛大にホットドックの屋台をすることにしました。どうひいき目に見ても計画性があるとは言えない、僕を含めた仲間たち。問題はやはり当日の朝にやって来ました。ホットドック屋としては命の次に大切な「ソーセージ」と「パン」。ことある間にそれが足りるとか足りないとかいう大問題が勃発！しかしながらで協力し合い、何とかその問題をクリア。ようやく「いける！」と思ったその次には「マスターード」問題が大勃発！まともに買え抜けっこう値の張る「マスターード」なので、何かで代用しようとしたものどうしたものかさっぱり分からず、なんとなく粉の「和がらし」を練つてはみたものの、どうやっても「おでん味」・・・。結局は出費を覚悟で、近所のスーパーへマスターードを買いに直行しました。はつきり言つて、こういう人達が商売をやつてはいけません。儲かるわけがありません。

更には無責任な思いつきで、「やつぱりさあ、ソーセージは炭火焼きでしょ！」

美味しそうなイメージにすっかりヤラレた僕らは、バーベキューを即準備しました。もともと外で遊ぶのが好きなグループだつたため、炭とバーベキューの扱いは慣れたものです。あの店は美味しと噂が立ち始め、ホットドックの人気に火がつき始めたその矢先！・・・燃えました。なんとコノロを載せていた机から煙が！あわてて水をかけ消し止め、何事もなかつたかのように営業再開し、最後まで店を続けました。突然のトラブルに見舞われ

ここからは二つの話です。

奴らがやつて来たのはそんなトラブル続きの敬和祭、最終日の夜です。そのグループは「インティ・クントワール」と呼ばれ、遙々と海を越え、ペルーからやって来たフオルクローレの楽団でした。祭りもいよいよ終盤、みんなが心なしか寂しそうに見えてきた時間帯です。陽も暮れてほどよく暗くなってきたそのころ、グラウンドの真ん中にあるキャンプファイヤー用の櫓に火が入りました。クライマックスをさらに盛り上げるかのようすに真っ赤な炎はごうごうと燃え上ります。その燃えさかる火のすぐ目の前で、彼らは演奏を始めました。チャランゴ、ボンボ、ケーナ、サンボーニャなどという南米系の楽器達の音が、炎で照らされたグラウンドに響いて遠くに消えています。「なんだ、こりや!!」。そのあまりの迫力と空気感に痺れました。

周囲は田んぼの真ん中を通る一本のバイパス道路のみ。まさに大陸的シチュエーションです。演奏は途切れることなく続きた曲が始まつたときには、感動のあまりびっくりしたほど！一種のトランス状態でかつたです。一応ご報告しますと、売り上げはそれなりにつつたのですが、仕入れ値が高すぎたのと机の弁償代金で、見事に赤字でした。商売の難しさを肌で感じた四年目の秋でした。



軽音乐部の仲間たち（左端が皆川さん）

● ラテン系音楽との出会い

たかもしれないのです。

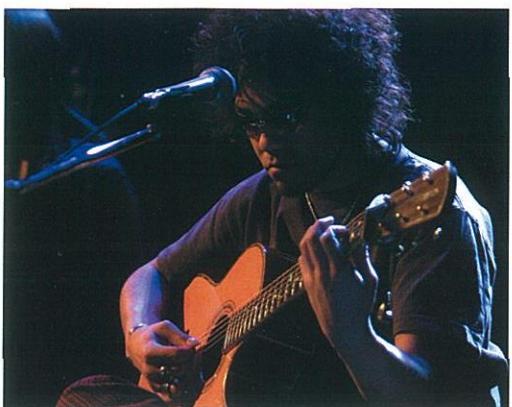
余談ですが、僕の親友である豪快で有名なS君は、「インティ・クントワール」でラテンの衝撃を受けたのでしょうか、はたまた彼の中に流れているラティーノの血なのでしょうか・・・。卒業後に「俺は南米のアマゾンに『ヘラクレスオオカブトムシ』を探しに行く！」などと無茶苦茶なことを言い出し、その後本当に南米エクアドルのアマゾンに行つてしましました。帰国の時、成田空港まで迎えに行つたのですが、あまりの怪しさになかなか入国審査をクリアできず待たされること約一時間。そんな彼ですが、今ではもうすっかり一児のパパです。話は逸れてしましましたが、それくらい敬

和祭には僕にとつて衝撃的な出来事が数多
くありました。

● 音楽での生活を求めて

さて話題を変えまして、ここからは卒業後の話をしたいと思います。

仲のよかつた友達が大勢卒業していくのを見送った一年後に僕も卒業することができました。卒業前から音楽で生活していくたい!と思っていたので、いわゆる一般的な就職活動は一切ナシ。今考えると空恐ろしくなりますが冒険は若さゆえの特権です。半年ほどアルバイト生活をした後、とある楽器店からギターの講師をやってみないか?というお誘いを受け、必死に音楽理論の勉強を始め、その甲斐あって何とか試験に合格し、晴れてギターの講師として働き始めたことになりました。ここからの五



ライブにて（撮影 田村 仁）

年間は密度の濃いものでした。先生であるが故のプレッシャーはあったものの、それ以上に生徒さんとのコミュニケーションから勉強をさせてもらうことがとにかく多く、人として成長させられた期間でした。そしてその時につくったバンドが今の「Boogaloob（ブガルーブ）」の母体となつたのです。僕はアコースティックギターを担当しているのですが、夜な夜なメンバーが集まって曲を創り、練習をして時間が過ぎて行く日々でした。そのころからライブの回数も増えだし、日ごろからお世話になっていた知人の紹介で現在の所属事務所の社長に出会うことができました。

● そしてデビュー

その後、東京のスタジオでのデモ制作を経て、二〇〇一年にインディーズのレコードメーカーからアルバム「月光」をリリースしました。東京に住処を移した後も活動を続け、昨年に東芝EMIからメジャー・デビューアルバム「月のしづく」、今年にはシングル「魔法の指先」をリリースすることができました。リリース後、ありがたいことに全国各地のイベント、FM局の応援を受け、日本全国をライブなどで回っています。そして来る十一月三日にはセカンドアルバム「ルナ—Luna」を発表します。真っ直ぐな気持ちを歌にした、ブルース、ジャズを基調としたアコースティックサウンドです。かなりよい出来に仕上がっているのでぜひチェックしてみてください。

そして恩返しの意味も含め、今年の敬和祭（一〇月二十四日）で演奏させてもらうこととなりました。この機会にぜひ生のBoogaloobを体験してください。

そんなこんなで何とかやっていますが、今こうして活動をしていられるのも大學での経験があるからこそ。自分からアクションを起こす大切さを学んだ学生生活でした。

最後に当時の仲間達や、楽しい思い出をつくれた大学に感謝して終わりたいと思います。

皆川 匠さん プロフィール

敬和学園大学国際文化学科二期生
一九九六年度卒業

● 所属ゼミ

指導教員 小野哲教授（一九九九年三月退職）

ゼミテーマ 太平洋上及び周縁の邦国と地域

● CD作品 (Boogaloob)

- 二〇〇二年一〇月
アルバム「月光」（ミディクリエイティブ）
二〇〇三年一二月
アルバム「月のしづく」（東芝EMI）
二〇〇四年七月
シングル「魔法の指先」（東芝EMI）
二〇〇四年一月
アルバム「ルナ—Luna」（東芝EMI）

Boogaloobホームページ
<http://www.boogaloob.com/>

敬和ボランティアデイのご報告

体験レポート

七月七日、本学で開学以来取り組んでいたボランティア実習が行なわれました。

山崎ハコネ先生が担当する「ボランティア論」の授業で理論と構えを学び、基礎ゼミ毎に十分な事前準備を行い、担任の先生方の指導と監督のもと有意義な活動に励むことができました。当日は一七〇名の一年生が参加し、新井学長も多くの実習先を回って学生たちの活動を激励しました。

「ボランティア」は、実は、古くて新しい概念です。本来人間の活動はすべて自発的な意思によってなされるもので、他者の利益を考えに入れない活動はありえないのです。今年も多くの学生たちが、人間にとりつ大切なことを学んだことでしょう。

(ボランティア委員会)



施設の方と寺尾中央公園にて（スペースBe）



「うちの実家」にて

ボランティアのパワーと魅力について

科目等履修生 宮澤 美枝

折りしもテ

レビは連日、新潟豪雨被害の後片付けに汗するボランティアの姿を映しています。女子高生が顔の汚れを氣にせずにスコップで泥を搔き出す姿に引きつけられました。個の力は小さくとも、集まればその何倍もの力を發揮する、ボランティアのパワーを映像によつて、はつきりと意識に植え付けられました。

私は、矢嶋ゼミの学生と一緒に、新潟市にある「うちの実家」でのボランティア活動に参加しました。

この施設を主宰している河田珪子さんは、相手の話にじつと耳を傾けます。とことん傾けてから、温もりいっぱいの言葉をやさしく相手にかけるのです。そうされた人は、自分が大切に扱われていると感じ、ここへ来てよかつたんだと心から思うでしょう。みんなだんだんいい顔になっていくことがそのことを実証しています。

河田さんは、「失敗はいいこと。弱さをさらけ出して生きること。だから助けるしきれることです。そうしてお互いに向かっていくことができるのでしょうか。



社会福祉

共生社会学科

社会福祉士国家試験対策講座

七月二十九日、三〇日に、一年生を対象とした第一回の社会福祉士国家試験対策講座が開催されました。試験は四年生の一月に実施されますが、合格率が三割を切る難関なので今から準備を始めようという目的です。

二十九日は二十七人の学生が受講し、午前九時から午後四時一〇分まで行なわれました。まず、新井学長の開講の挨拶があり、学生たちに激励と期待の言葉が送られました。続いて、「共生社会学科がを目指すところのもの」という山田学科長の講義があり、現代の社会はこれまでの競争社会から共生社会へと転換せざるを得なくなっていること、そして共生社会のキーワードは「共生」と「ケア」であることが説明されました。

在学時の経験から福祉の道を選んだ先輩の話にみんな聴き入りました。



専門科目を学習していない一年生には難しい内容だったと思いますが、二日間を通して学生のみなさんはとても熱心に受講していました。是非、高い志と強い気持ち、そしてクラスのチームワークで難関の国家試験を突破して欲しいと願っています。

(共生社会学科)

久島

次に、新潟県社会福祉士会会長の松山茂樹先生による「社会福祉士制度の意義と課題」についての講義があり、社会福祉制度と資格制度の沿革、社会福祉士の定義、援助の視点などについてわかりやすく解説していただきました。先生は、社会福祉士の資格を取った後の研鑽が大切であるということを強調されました。

午後の部は、福祉の現場で活躍している本学卒業生で社会福祉士の鈴木貴之さん、今年社会福祉士を取得して「からし種の家」に勤務している上原さつきさん、卒業生の飯田圭子さんの三人から福祉の道に進んだ理由、仕事の現状、国家試験受験対策など、学生たちにとって身近な話題を話していくたきました。終了後ドリンクタイムを兼ねて、三人の実践報告への質疑応答が行なわれ、来年度就任予定の教員も参加して活発な議論で盛り上りました。

三〇日は三〇人の学生が出席して午後一時から四時一〇分まで講義が行なわれ、松山先生から国家試験に出題される十三科目について、出題範囲、よく出題される項目と理解するうえでの着眼点、出題様式などについて丁寧に解説していただきました。

地域のみなさま 対象
訪問介護員二級講座を開催しました

本学では、今年度から一般庶民を対象とした訪問介護員（ホームヘルパー）二級講座を開講しました。講座は八月二日から九月十六日の日程で、新発田市、中条町、加治川村、新潟市、阿賀野市から三十四名が参加して実施されました。ほぼ毎日、朝の九時から夕方五時までという長時間にわたるスケジュールにもかかわらず、受講者の方々は熱心に講師の話を耳を傾け、実技授業にも真剣に取り組んでおられました。

本学では、昨年度から学生向けに「ホームヘルプサービス論」という授業として同様の講座を行っており、三十一名の修了者を出しています。本学では、今後も高齢化社会の介護ニーズに対応する専門的な知識と技術を身につけた訪問介護員を養成し、地域の社会福祉に貢献していきます。



基本介護技術の実技に取り組むみなさん

JCLP

お客様さま JCLP (日本語・日本文化プログラム) のご報告

六月六日から十九日の二週間、JCLP (Japan Culture and Language Program) が実施されました。このプログラムはその名のとおり、海外からの留学生を本学で受け入れて行なう日本文化と日本語の短期集中研修で、今回で二回目の実施となります。

今回は、アメリカから四名の高校生と一名の大学生が参加しました。新発田市や聖籠町のご家庭にホームステイしながら、日本語を学んだり、新発田市内や弥彦村周辺の観光などで日本文化に親しみました。また、日本語の授業では、本学学生が留学生をサポートする「バディ」となつて、会話の練習相手や通訳となり活躍してくれました。



日本語学習ボランティアの方々と学生バディと一緒に記念撮影
日本語の授業で取り入れた“日本の夏の風物詩”
浴衣は留学生もお気に入りのようでした。

参加した留学生は、もりだくさんのスケジュールにもかかわらず疲れた様子もなく、最終日のホストファミリーとのさよならパーティーでは、別れを惜しみつつも、元気に帰つて行きました。

終了後のアンケートでは、留学生から大変満足度の高い評価を得ることができ、これも各入門講座でご指導くださった先生方、また、ご協力いただいたホストファミリーのみなさまのお陰と大変感謝しております。本当にありがとうございました。

(国際交流委員会)

《参加留学生の声》

日本語の授業で私たちが理解できない時に、敬和の学生が私たちと先生の間にあって通訳してくれたので、授業を理解するのに役立ちました。このバディ制度は、とてもよかつたです。ホームステイもすばらしいものでした。家族はとてもよい方ばかりで、私を家族の一員として扱ってくれました。本当に名残惜しいです。家族のみなさん、敬和のスタッフ、先生たち、私はみんなのことのが大好きです！

《ホストファミリーの声》

今回初めてホストファミリーを経験しました。子供たちが言葉の壁を感じながらも積極的に留学生に話しかけ、相手を受け入れて接してくれたことをうれしく思いました。また他人を家族として受け入れ、異文化の人と生活を共にすることはとてもよい



初めての書道体験でしたが、心を落ち着かせ、集中して書いていました。
それぞれ自分の名前をうまく書くことができ、満足した様子でした。

《JCLP の内容》

日本語学習（二〇時間）、

白根大麻合戦見学、日本マナー入門、能の入門、茶道入門、書道入門、和菓子作り体験、新発田市内観光、

教育現場見学（敬和学園高校、聖籠中学校、聖籠町立蓮野小学校、

絆己校（聖籠町の幕末の私塾）見学など

（聖籠町 新田様）

就職

さまざまな角度から
就職活動を支援

インターンシップと資格取得支援

本学の就職指導室では、最新の業界情報に基づいた「個別指導」、地元の自治体や企業のご協力で「足先に社会人を体験する」「インター・シップ」、在学中のキャリア育成のための「資格取得支援」等を柱に、学生一人ひとりの就職指導を行なっています。

インターンシップ

連携の大切さを学んだ一週間



英語英米文学科三年 伊藤 彩花

私は、八月四日から十七日までの二週間、聖龍町町民会館でインター・シップを体験させていただきました。公務員の仕事といえば、デスクワークを想像していましたが、私が体験したのは違った内容のものでした。まず、私が体験したのは、館内の各部屋にある備品の調査でした。汗でビショビショになりながらの調査で、これが公務員の仕事?と首を傾げてしまふほど大変な仕事でした。

町民会館では、町内外の人々に場所を提供したり、様々な行事を計画して人々の憩いや、ふれあいの機会を設けています。「私たちにはイベント屋なんだよ。」とおっしゃつた言葉は私の心に強く印象に残りました。毎年、八月十五日は町の成人式です。私も毎年この成人式に参加しましたが、準備や後片付けをする立場になると、多くの人々の協力で成り立っていることがわかり、改

めて町民会館の方々に感謝しました。毎日同じ仕事を繰り返すのではなく、イベントごとに起こるハプニングに臨機応変に対応し、次に活かすことが大切でした。また、ハブニングを最小限に抑えるためにも常にお互いの間で確認をとりあっていました。

姿が、この体験を通して深く印象に残っています。一つのイベントに対して、みんなで協力し、人々に喜んでもらおうと取り組む共通の姿勢は、とても魅力的でした。この体験で公務員になりたいという気持ちがより強くなりました。また、これから一人前の人間として社会に出るために自分がやるべきことが明確になってきたと思います。

かと考えていたところ、今回の医療・福祉・建築の分野を学べる福祉住環境コーディネーター講座が目に留まり受講しました。実際に講座を受講してみると、講義の回数と時間が少ないこともあって、一回の講義が終わった時には、すでに投げ出したい気持ちになっていました。しかし、先生がとても明るく、講義を毎回楽しく受講できるので、最後までやってみようという気になれました。

だんだん試験日が近づくにつれ、合格したいという思いが強くなってきて、試験日の一週間前から集中して勉強に打ち込みました。試験は思った以上に難しく、ひつかけ問題もたくさんあって手こずりましたが、ひつかりやすい文例などを覚えていたので、そんな問題も自信を持って解くことができました。その甲斐あって、何とか合格点に達することができたと感謝しています。

今まで介護保険制度のことや在宅関連サービスのことはまったく分かりませんでしたが、今回勉強したことと、今後、自分や家族が介護保険等が必要となつた時に、今回得た知識が活かせると思います。

今回は三級に合格しましたので、次の目標は二級合格です。二級はさらに難易度が増し、合格率も低いと聞いていますので、今回の試験でできなかつたところや不安なところを見直し、より知識を深め、次回の試験に活かしていきたいです。



福祉住環境コーディネーター三級に合格して

共生社会学科一年 宮崎 照文

私は以前から医療や福祉に興味があり、将来は病院等の医療機関で働きたいと考えています。そのため、そのため、そのような仕事に就くために有利な資格はない

二〇〇四年度 教職課程 妙高宿泊研修・公民科教職課程設置

体験レポート

人とふれあう喜びを実感

英語英米文学科 二年 遠藤 佑介



この研修の中でも、小学生との交流が一番心配なことでした。六年生は難しい時期であり、そして私は人見知りです。だからうまく仲良くなれる自信がなかったのです。

大学からの支援ボランティアへの呼びかけにこたえ、七月二十三日から八月十二日までのうち六日間、延べ人数で学生五十九名、新井学長以下教職員三十五名が学バスに乗り三条市に出かけ、復旧活動にいそしました。活動内容は、床上浸水した住宅の床をはがして床下にたまつた泥を除去するなど肉体的に非常にきつい仕事がほとんどでしたが、炎天下熱心に活動に励みました。真摯に活動に打ち込む友の姿は互いの心のうちに消ええない感動を残しました。

この研修までに、学生たちは班の編成、討議内容の設定と方法、野外活動の計画などを話し合い準備します。毎年この研修の後、学生たちは見違えるほど連帯感、教職への意識が高まり、その後の学習支援ボランティアや三年生からの教育実習及び四年生での教員採用検査に臨んでいきます。

また本学では、二〇〇五年度より国際文化学科に教職課程（高等学校一種免許状〔公民〕）を開設するため、文部科学省への申請の準備をしております。この申請が認められると、英語コミュニケーション学科に設置されている英語の教職課程に加えて、国際文化学科に公民の課程も設置されることになり、より多くの入学生のニーズに対応することが可能になります。

本学では、今後も教職課程の更なる充実のために努力していくので、より一層のご支援をお願いいたします。

（教職課程委員会）

教職

教育実習の事前指導の一環として、九月六日から八日にかけて、教職課程履修の二年生二十三名が参加して、国立妙高少年自然の家で宿泊研修を行いました。

この宿泊研修では、キャンプや野外活動をとおして、教師に必要な主体性と協調性、独創性、活動力、責任感、企画力、運営力、リーダーシップなどを養っていきます。今回は新しい取り組みとして、研修の二日目に味方村立味方小学校の生徒との交流プログラムを実施しました。

しかし、小学生と対面してフルと肩の力を抜きました。みんなが満面の笑顔で迎えてくれたからです。私が悩んでいたことを知つてから知らずか、私にどんどん話しかけてきました。素直に嬉しいことでした。仲良くなることに考えることなんて必要ない、ふれあうことが大切なのだということを、私は小学生から学んだのです。

小学生と一緒に挑戦したプロジェクトアドベンチャーでは、みんなの力を合わせないと攻略できない難関がありました。全員の心が一つになり、それをクリアしました。いつの間にかみんなうちとけていました。その時の達成感は今もまだおぼえています。

妙高で過ごした三日間でいろんなことを学べました。団体行動の大変さ、だからこそ協力できたときの達成感。そして、なによりも人とふれあう喜びです。

また、大学に設置した募金ボックスには、学生、教職員等から合わせて、十八万七千三百円の義援金が集まり、日本基督教団新潟教会内の募金センターを通じて、被災地の教会に一時見舞金として分配されました。

新潟県中越地方 七・一三水害のお見舞い

雨は、三条市、見附市を中心に基大な被害をもたらし、死者も出、七市町村の一、五〇〇人が避難所に逃れました。本学事務局では直ちに三条市を中心に本学学生ご家族の安否を探り、四名の学生の家庭が災害を受けていることが判明しました。さっそく七月二十一日に大学運営委員会を開き、学長から（一）この四名に対して見舞金を贈る、（二）施設設備費の半額免除、（三）教職員・一般学生へのボランティア活動へ参加要請、また（四）教職員・学生への募金の呼びかけを行なうことが提案され、決定しました。

大学からの支援ボランティアへの呼びかけにこたえ、七月二十三日から八月十二日までのうち六日間、延べ人数で学生五十九名、新井学長以下教職員三十五名が学バスに乗り三条市に出かけ、復旧活動にいそみました。活動内容は、床上浸水した住宅の床をはがして床下にたまつた泥を除去するなど肉体的に非常にきつい仕事がほとんどでしたが、炎天下熱心に活動に励みました。真摯に活動に打ち込む友の姿は互いの心のうちに消ええない感動を残しました。

リフレッシュセミナー

第四回中学校・高等学校英語科教員対象 リフレッシュ・セミナーのご報告



絵本を教材として（外山先生）

この他にも今後のセミナー企画する上で重要な多くのご感想、ご要望をいただきました。大変暑い日でしたが、お忙しい中、ご参加くださいましたみなさま、講師のみなさま、ありがとうございました。

（英語文化コミュニケーション学科 杉村）

八月六日、恒例となりましたリフレッシュ・セミナーが、新潟県教育委員会のご後援をいただき、四回目の開催を迎えました。

今回は "Creating Communicative Classes" をテーマに、本学ネイティヴスピーカーの教員のほか、本学で児童英語教育の授業を担当、この分野で活躍の外山節子講師、また長い間、国際情報高等学校に勤務され、現在、阿賀黎明中学校・高等学校で教諭をなさっている山賀淑雄先生を講師にお迎えいたしました。

それぞれの講師から「コミュニケーション授業作りに役立つ様々な工夫を紹介していただき、四十六名の参加者のみなさまには、魅力あるワークショップで多いに「リフレッシュ」していただけたようです。

山賀先生のワークショップは実践的な内容で、段階を追つて構成されているのがgoodでした。コンピュータは苦手なので、恐る恐るジェイムズ・ブラウン先生のインターネットを使うワークショップに参加しましたが、すぐにでも使いたくなるようなサイトを紹介してもらつてよかったです。

（中学校教員）

ジョイ・ウイリアムズ先生のワークショップは、構成がとてもよく、課題をこなしながらグループの方たちとコミュニケーションを深めることができました。さまざまな活動を通して、自己表現にまで持ついく導入の仕方は勉強になりました。自分自身が想像力豊かであることが、生徒からよい自己表現を引き出す大切な要素であると思いました。

（所属不明）

充実の時を過ごさせていただき感謝申しあげます。現場に戻つてから生きせるように様々な配慮をしていただいたので、本当に意義のあるワークショップでした。

（高等学校教員）

外山先生はテンポよく進められ、あつという間の一 日でした。生徒のコントロールから、一人一人の学習スタイルに対応した活動、音声に関する理論的なことまで学ぶことができました。

（中学校教員）

被災地では、未だ復旧活動に取り組まれている方々もいらっしゃることと思います。謹んで水害のお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

本学で毎年開催している三条市のオープン・カレッジの会場である三条市中央公民館も八月末まで避難所として被災者の方々の生活の場として提供されました。今年、一〇月からはじまる三条市のオープン・カレッジは公民館のみなさんのご努力により、予定どおり行なわれます。本学も三条地区復興の支えに少しでもなれますよう、三条市のみなさまに満足していただける講座を目指し、準備をすすめております。



平成十六年度 オレンジ会総会のご報告

オレンジ会 会長 渡辺 幸二郎

私は、会長の渡辺幸二郎と申します。皆様に総会の御報告とともに、御協力に感謝申し上げます。

総会は平成十六年六月十一日に開催致しました。私から報告事項や今後の諸々案事項などを含めて御挨拶を致し、顧問でいらっしゃる聖籠町長の渡邊廣吉様、新発田市長代理として大山康一助役様、ほか多数の方々から御来賓として御挨拶や、力強い御支援のお言葉を頂きました。

今年度は役員の改選期のため、新役員についてお詰り致しました。公職等の立場が変わられた方などを除いて、全員の方から快く再任の御承諾を頂きました。

私はオレンジ会が大学の“地域後援会”（この呼称は公に認知されてはいないのですが）の役割を担いたいと考えています。大学は新発田市と聖籠町とが官民挙げて誘致に努力した、当地域唯一の四年制大学であります。大学の敷地と建物が、新発田市と聖籠町の境界線上にあることを考えるとき、オレンジ会こそは民間組織である利点を生かし“地域後援会”として、大学の更なる発展に御協力したいと思つからであります。

開学以来、初代学長の北垣宗治先生をはじめ、教職員の真摯な努力と、二代目学長の新井明先生の素晴らしい御指導で、今年三月末現在で二、二二六名もの多くの卒業生を輩出し、四月から新たに創設された



オレンジ会総会の様子

九〇m級アーチエリー場の設置について がんばれ！アーチエリー部

高校総体等で活躍し、新潟県内の大学生選手と比べてもひけを取らないアーチエリーオの実力を持った学生五人（敬和学園高校卒業および長岡工業高校卒業）が、今春敬和学園大学に入学してきました。

彼らからの活躍への期待から、八月に本学体育館東側にアーチエリー場を設置しました。これは県内でも数少ない九〇mの距離からも射てるアーチエリー場で、競技場にもなり得るもので。学生たちは十月の新人戦に備えて、酷暑の中を毎日練習にはげんでいます。ここから、将来のオリンピック選手が育つことを夢みています。

このアーチエリー場の設置にあたつては後援会が全面的にご協力をしてくださいましたこと、感謝をもって記します。



さっそく練習に励むアーチエリー部員。
これからも活躍に期待がかかります。

敬和祭

第十四回 敬和祭の様子

地域のみなさまの温かいご支援により、今年で敬和祭は十四回目を迎えます。今年のテーマは「Search for my way, going my way」です。これは、学生それぞれが自身の道を探し、それぞれの道を突き進むというイメージからつけたものです。

今年の日程は、十月二十三日（土）に近隣の小学校や高等学校の吹奏楽部、本学のプラスバンド部、軽音楽部が参加して行なう「ミュージック・フェスティバル in Keiwa」、十月二十四日（日）、本学卒業生の皆川匠さんが所属し、昨年十二月にメジヤーデビューを果たしたバンド「Boogaloob（ブガルーブ）」のライブと学生ライブ、そして骨髄バンクドナー登録会です。

皆川匠さんは、この号の巻頭でご紹介のとおり、本学軽音楽部を立ち上げ、敬和祭で恒例となっている学生ライブの足がかりをつくった方です。今年はプロのミュージシャンとして敬和祭に帰ってきます。その他、学生団体によるバラエティー豊かなメニューの屋台やゼミの教室展示など盛りだくさんの内容です。さらに、聖籠太鼓の演奏が敬和祭を一層活気づかせてくれます。日頃のみなさまへの感謝の気持ちと学生たちの普段の活動の成果を披露し、より多くのみなさまに敬和祭を楽しんでいただきために、敬和祭実行委員の学生が一丸となり、実施に向けて日夜がんばっています。ぜひ、お友達と一緒に遊びに来てください。お待ちしております。

（敬和祭実行委員会）

第14回敬和祭のスケジュール

月 日	時 間	企 画
10月22日(金)	13:30~16:00	敬和ふれあいバラエティ
	10:00~14:30	ミュージック・フェスティバル in Keiwa
	10:00~16:00	茶道部 茶会
	11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
	12:00~13:00	演劇部公演
10月23日(土)	13:00~14:00	響・聖籠太鼓
	11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
	11:00~16:00	骨髄バンクドナー登録会
	11:30~13:00	お笑いライブ
	11:30~14:00	FMしばた生中継・収録
10月24日(日)	12:00~17:30	学生ライブ
	15:00~16:00	Boogaloob (ブガルーブ) ライブ



昨年度の敬和祭の様子

オープンキャンパスは、これから大学進学をお考えの高校生ならびに保護者のみなさまや、日ごろお世話になつております地域のみなさまに、大学の施設や講義を無料で開放し、敬和学園大学をよりよく知っていただく場となつております。

今年度はすでに六月二十日、七月二十五日、九月二十日を盛況のうちに終了し、敬和祭と併せて実施する十月二十四日（日）を残すのみとなりました。

十月二十四日（日）は、毎回好評をいただいている体験授業に加えて、入試を間近に控え個別相談や模擬面接の場も設けられます。わからないこと、知りたいことがあります。わからぬことでも気軽に相談に来てください。

二〇〇五年度入試では、六月よりAO入試のエントリーを開始しています。「オープンキャンパス参加型」では、オープンキャンパスの参加後に、「体験レポート」（感想文）を提出することにより、本来一回の面談を一回で済ますことができます。AO入試に興味を抱いている志願者は、まずはオープンキャンパスにご参加ください。

その他の入試制度については、ホームページ（www.keiwa-c.ac.jp）で詳細をご覧いただくことがでれます。

（入試室）

オープン・キャンパスおよび二〇〇五年度の入学試験についてのお問合せ・お申込みは、本学入試室（三〇一-110-二六一三六三七）までお願いいたします。

敬和祭とオープンキャンパス

「一・二年生保護者との懇談会」および「人文社会科学研究所シンポジウム」のご案内

来る十一月六日（土）本学を会場とし、午前中に一・二年生保護者を対象とした「保護者との懇談会」、午後には一般の方どなたでも参加できる「人文社会科学研究所シンポジウム」を開催いたします。いずれも参加費用は無料となっております。左記をご覧いただき、ふるってご参加くださいますようよろしくお願ひいたします。

一・二年生保護者との懇談会

昨年度に引き続き一・二年生保護者のみ

なさまを対象とする「保護者との懇談会」

を本学後援会との共催で開催いたします。

会は二部構成で行い、一部では保護者ののみなさまに本学の教育内容についての「地理解を深めていただきたいと考え、新井明学長と山田耕太教務部長が「敬和学園大学の教育方針について」と題し、お話し申し上げます。

また、引き続き行われる第二部は、「懇親会形式により、保護者のみなさまと日常頃アドバイザーとしてお子さまと接している本学教員との間で、学業成績や今後の学生生活などについての意見交換を行う予定にしております。

たくさんのお保護者のみなさまにご来臨賜りますようお願いいたします。

《日時》十一月六日（土）

十一時～十三時三〇分

《会場》敬和学園大学

※お申し込み・お問合せ

敬和学園大学教務課教務係

二〇二五四一六一五一四

《日時》十一月六日（土）

十四時～十六時

《会場》敬和学園大学

※お申し込み・お問合せ

敬和学園大学総務課

二〇二五四一六一三九四

人文社会科学研究所シンポジウム 「国際文化学とは何か」

普段からみなさまが、新聞やニュースなどで興味は持たれていても、実際なかなかされる機会の少ない「国際文化学」を、本学教員を中心とした講師陣がそれぞれのテーマから分かりやすく解説していきます。

地域のみなさまはもちろん、高校生、学生保護者のみなさまからのご参加をお待ちしております。

《パネリストとテーマ》

・富川尚本学講師

・「ヨーロッパ・アイデンティティ」

・伊藤豊山形大学講師

・「現代アメリカの反移民主義」

・延原時行本学教授

・「地球時代の政治神話」

《コメンテーター》 前嶋和弘本学講師
《司会》 岩倉依子本学教授

学事予告

学事予告

◆十一月◆

十三日 三条市オープン・カレッジ②
十九日 聖籠町オープン・カレッジ③
二十日 三条市オープン・カレッジ③
二十一日 ふれあいバラエティ

二十三日 敬和祭（二十四日まで）
二十四日 オープン・キャンパス④
二十六日 聖籠町オープン・カレッジ④
二十七日 三条市オープン・カレッジ④

十一月◆
二十一日 一・二年生保護者との懇談会
二十二日 企業との就職懇談会
二十三日 大学オーブン・カレッジ（五日まで）
二十四日 高校大学合同クリスマス研修会
二十九日 クリスマス行事
三十日 撫・櫛・妻・綱（二回）、桂（二回）入試

十一月◆
一 日 冬期休暇（二月五日まで）

二十一日 クリスマス行事

二十二日 大学オーブン・カレッジ（五日まで）

二十三日 冬期休暇（二月五日まで）

二十四日 クリスマス行事

二十九日 大学オーブン・カレッジ（五日まで）

三十日 クリスマス行事

一 日 冬期休暇（二月五日まで）

二十一日 クリスマス行事

二十二日 大学オーブン・カレッジ（五日まで）

二十三日 クリスマス行事

二十四日 大学オーブン・カレッジ（五日まで）

二十九日 クリスマス行事

三十日 クリスマス行事

一 日 冬期休暇（二月五日まで）

寄付者ご芳名

一般 品田孝、曾我欽弥、

吉川祥子、オレンジ会

新井明3、柴沼晶子
杉本勝信

長谷川政和

有澤未欧

長谷川光

上田純子

大久保秀樹

一九九四組
一九九六組
一九九七組
一九九八組
一九九九組
二〇〇〇組

新井明3、柴沼晶子
杉本勝信

長谷川政和

有澤未欧

長谷川光

上田純子

大久保秀樹

一九九四組
一九九六組
一九九七組
一九九八組
一九九九組
二〇〇〇組

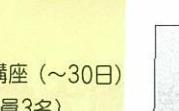
キャンパス日誌

7月

- 1日 豊栄市オープン・カレッジ④
講師 久島公夫 教授 「食と健康」
- 2日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑩
説教 延原時行 宗教部長 「祈りと平安」
講演 韓国ソウル神学大学カペラ合唱団
「証しと讃美」(写真)
- 3日 大学・高校合同研修会

- 6日 新潟東高校PTA 学校見学 (保護者20名、教員6名)
- 7日 敬和ボランティア・デイ (13施設訪問)
- 8日 豊栄市オープン・カレッジ⑤
講師 前嶋和弘 専任講師
「アメリカの食とグローバリズム」
- 9日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑪
説教 新井明 学長 「アブラハムの旅」
教育実習反省会 (写真)

- 12日 前期講義終了
- 13日 補講日 (~16日)
- 14日 教授会
- 15日 豊栄市オープン・カレッジ⑥
講師 中村義実 助教授
「コミュニケーションと食育」
- 16日 新潟向陽高校 学校見学 (生徒17名、教員2名)
- 17日 2004年度新潟地区第10回留学生のつどい
- 20日 前期末試験 (~31日)
- 23日 7.13水害ボランティア派遣 (学生8名、教職員6名)
- 24日 7.13水害ボランティア派遣 (学生21名、教職員6名)
- 25日 オープンキャンパス② (104名) (写真)

- 27日 高志高校 学校見学 (生徒16名、教員1名)
- 28日 7.13水害ボランティア派遣
(学生7名、教職員4名)

- 29日 理事会
共生社会学科社会福祉士国家試験対策講座 (~30日)
- 30日 新発田高校 学校見学 (生徒119名、教員3名)
- 31日 新発田南高校 学校見学 (生徒244名、教員6名)
- ワシントン・アカデミー・オブ・ランゲージーズ
夏期短期留学出発 (~9月5日) (1名)

8月

- 1日 夏期休暇 (~9月23日)
- 英語学校
アングロ・コンチネンタル 英語学校
- 夏期短期留学出発 (~9月6日) (1名)
- 2日 前期集中講義 (~5日)
訪問介護員養成研修 (~9月16日)
- 7・13水害ボランティア派遣 (学生9名、教職員6名)
- 3日 7・13水害ボランティア派遣 (学生8名、教職員5名)
- 6日 第4回中学校・高等学校英語科教員対象
リフレッシュ・セミナー (写真)

- 9日 就職対策講座 (~10日)
- 12日 7.13水害ボランティア派遣 (学生6名、教職員6名)
- 19日 職員研修会
- 20日 職員研修旅行 (~21日)
- 27日 新発田まつり民謡流し (写真)
(参加者: 学生30名、教職員20名)


9月

- 6日 教育実習事前指導研修 (写真)
於 国立妙高少年自然の家 (~8日)
- 15日 教授会
- 20日 オープンキャンパス③ (115名)

- 22日 前期卒業式
- 24日 履修指導日
理事会
- 25日 後期履修登録期間 (~10月1日)
- 保護者との就職懇談会 (3年生保護者対象)
於 新潟グランドホテル
- 28日 聖籠町オープン・カレッジ「教養講座」①
講師 ジェイムズ・ブラウン 教授
「日本語は面白い」

~訃報~

去る6月18日、国際文化学科2年生の笹川丈彦さんがお亡くなりになりました。
お悔やみを申しあげますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

KEIWA チャレンジ学生ファイル⑨



英語英米文学科 2年

濱口 貴廣

「関川マラソンを終えて」

今年の6月に、新潟県北の関川村で行なわれた「関川マラソン」に出場した。この大会は、大石ダム湖畔を回るコースで、その地形上、アップダウンが非常に激しいことで有名なレースである。

15kmを走るレースであるが、スタートしてからの5kmは、すぐに上り坂が始まり、その後折り返して、上った坂を逆に下るコースとなっている。上りの走りには自信があるのだが、下りは苦手でリズムのよい走りができず、予想よりも多くの選手に抜かれてしまった。その後少しの平坦路があり、また上りになる。この上りが一番きつくレースのポイントになっている。実際、上りが得意な私でも本当にきつく、感覚的には歩いているようであった。この上りで踏ん張り、一気に抜き返して3位集団に追いつくことができた。

しばらくの間3位争いをしていたが、ラスト4キロ地点の給水地点で水をかぶったおかげで、なくなりかけたエネルギーが少し回復し、3位集団から抜け出すことができた。2位のランナーも見えていたが、最後は少し脱水症状になり抜くことができず、そのままゴール。3位入賞（58分10秒）であった。しかし、上りのコースに自信がある私にとっては少し残念な結果だった。来年出場するならば優勝を目指して必死に努力したい。

私の最終目標は、毎年12月に行なわれるホノルルマラソンを卒業記念に走り、2時間台でゴールし、最高の笑顔で学生生活を終えることである。

敬和学園大学
www.keiwa-c.ac.jp



ケータイサイトはこちら